

平成28年度 兵庫県立姫路別所高等学校 学校評価

平成28年度 兵庫県立姫路別所高等学校 学校評価

教育方針	校訓「友愛、責任、自立」のもと、学校・家庭・地域が一体となった体験活動や姫路特別支援学校との交流及び共同学習を通して、「豊かな心」や「共生の心」を育むとともに、確かな学力や自立的に生きる力を培い、夢の実現に努力を続ける、知・徳・体の調和のとれた人間を育成する
重点目標	1 授業力向上を生徒指導につなぐ「わかる授業」づくりに努め、確かな学力の確立を図る
	2 キャリア教育の推進し、社会的自立に向けた教育の充実を図る
	3 生徒指導と生徒支援の充実を図る
	4 保護者・地域との連携を深め、信頼される学校づくりを推進する
	5 自己探究類型の教育内容を検証し更なる充実を図る
	6 姫路特別支援学校との交流及び共同学習を推進し、「共生の心」を育む

(評価)

4 よくできた	A 平均 4.0～3.4
3 できた	B 平均 3.3～2.7
2 あまりできなかった	C 平均 2.6～2.0
1 できなかった	D 平均 1.9以下

(評価)

昨年度平均	2.89
今年度平均	2.87

領域	評価の観点	評価項目	No	実践目標	前年度最終評価	中間評価	今年度最終評価	評価割合 到達度・取り組み内容 解決に向けての方策	関係者評価	
学校運営	開かれた学校づくり	地域への貢献	1	地域の行事や近隣の施設等に生徒会や部活動の生徒が参加し、地域に貢献し、開かれた学校づくりを推進する。	3.4	3.1	3.3	 ④: 32% ③: 62% ②: 6% ①: 0%	B	
		家庭や地域への情報発信	2	PTA総会や学校ホームページ(通信以外に月複数回更新)、学校通信(月1回)、学年通信を通じて、学校の情報を積極的に発信する。	3.4	3.2	3.2	 ④: 26% ③: 65% ②: 9% ①: 0%		
			3	オープンスクール、オープン・ハイスクール、中学校訪問などを通じて地域に開かれた学校づくりを推進する。	3.4	3.2	3.2	 ④: 26% ③: 65% ②: 9% ①: 0%		
		学校評議員の活用	4	学校評議員に日頃の本校の活動を見てもらい、日常的に率直な意見を聞き、学校運営に反映させる。	3.1	2.6	2.6	 ④: 6% ③: 53% ②: 38% ①: 3%		
	生徒指導	生徒指導体制の充実	5	明確な生徒指導基準を設定し、生徒・保護者・教職員間でその共有を図り、指導の徹底を目指す。イエローカード等の活用を図り、校内でのルール(服装・頭髮)や社会通念上のマナー等を遵守させ、学年進むにつれ指導件数を減少させるよう規範意識を育てる。	2.3	2.8	3.0	 ④: 21% ③: 56% ②: 24% ①: 0%	B	
			6	保護者にも協力を求め、学校全体で登下校指導を行い、生徒のマナー等の向上を図り、交通安全指導や通学路の安全確保に努める。	2.8	3.0	3.1	 ④: 24% ③: 62% ②: 15% ①: 0%		
			7	全校集会等で生徒たちに静かに話を聞かせ、校歌をしっかりと歌えるようにする。聞かせる工夫として画像・ビデオをプロジェクターで投影し生徒の視覚に訴える等、より効果的な指導を展開する。	2.7	2.8	2.9	 ④: 15% ③: 65% ②: 18% ①: 3%		
		基本的な生活習慣の確立	8	生活のリズムを整えさせ、規則正しく心身ともに健康な生活を送ることが出来る習慣を養う。特に遅刻指導を徹底し、遅刻数を半減させる。	2.4	3.0	2.9	 ④: 15% ③: 62% ②: 21% ①: 3%		
	8月にオープン・ハイスクール、10月特色選抜説明会、12月に学校説明会、6月にオープンスクールを実施									
	学校評議員会の意見を職員会議で報告し改善策を練る。管理職のリーダーシップのもと、評議員の意見を参考に改善をすすめる。									
	指導件数は昨年比3分の1に。携帯指導件数も40%以下になった。生徒指導基準を浸透させ、段階指導では「改善シート」を活用する。									
	登下校指導での立ち番に、専門部や学年に依頼し、指導の充実を図った。									
全校集会ごとに校歌練習を継続している。										
遅刻数を半減させた。遅刻指導では、1・2年が「遅刻改善シート」の活用、3年は独自指導を行った。										

平成28年度 兵庫県立姫路別所高等学校 学校評価

領域	評価の観点	評価項目	No	実践目標	前年度最終評価	中間評価	今年度最終評価	評価割合 到達度・取り組み内容 解決に向けての方策	関係者 評価
学校運営	生徒指導	部活動・自主活動の活性化	9	部活動オリエンテーションを実施し、1年生全員に部活動を体験させ部活動の入部率を上げ、全体の入部率を6割以上にする。ノ一部活デーを踏まえ、生徒が自ら考え練習させ主体的な取り組み行わせる。	2.7	2.9	2.9	 ④: 9% ③: 68% ②: 24% ①: 0%	B
				生徒との個人面談を早期に実施し、内面理解を図る。HyperQUアンケートを活用し、各生徒の状況を把握し、必要な生徒・保護者をキャンパスカウンセラーにつなぎ、教育相談を受けさせる。	2.9	3.0	3.2	 ④: 24% ③: 70% ②: 6% ①: 0%	
				心のサポートシステムに従い、ピアサポートによる生徒指導をすすめ、生徒が主体的に携帯やネットの問題を考え改善をすすめるよう指導する。小中学生との連携をすすめる。	2.8	2.9	2.9	 ④: 8% ③: 76% ②: 15% ①: 3%	
	進路指導	進路指導体制の充実	12	LHR、総合的な学習の時間など各学年段階に応じた計画的な進路指導計画を作成し、体系的な進路指導を実施する。指導に際して、「進路の手引き」「高校生キャリアノート」を活用し、生徒・保護者に必要な情報を早期に提供する。	2.8	2.7	2.5	 ④: 3% ③: 59% ②: 27% ①: 12%	B
				キャリア教育の視点に立って、就業体験(インターンシップ)や企業見学、オープンキャンパスや外部講師を活用した進路別学習会に参加させ、体験を通して進路意識を高める。	3.1	2.9	2.7	 ④: 0% ③: 74% ②: 26% ①: 0%	
				進路実現に向けて、補習授業や模擬試験、面接練習などを効果的に実施する。更に、挨拶の仕方、話し方、聞き方などの就労支援(ソーシャルスキルトレーニング)を実施し、社会性を培う。	2.7	2.9	2.8	 ④: 9% ③: 59% ②: 32% ①: 0%	
	教職員の資質の向上	指導力の向上	15	カウンセリング研修や救急救命法など外部講師の活用や他校の有効な情報を共有するなど校内研修の充実を通して、教員の資質向上を図る。	3.0	3.0	3.0	 ④: 15% ③: 74% ②: 9% ①: 3%	B
				防災マニュアル等を見直し、校内の組織化と役割分担を明確化する。また、病院、警察、自治体、自治会など関係諸機関と連携する。	2.9	2.7	2.8	 ④: 9% ③: 68% ②: 21% ①: 3%	
				生徒、保護者のニーズを把握し、「夢の実現」に向けて、学年・学級で実践目標を立て、その実現に向けて努力する。取り組み状況を学年通信で伝え、保護者会、三者面談、家庭連絡等家庭との連絡を密にとり、信頼され学校づくりを推進する。	3.1	2.9	2.9	 ④: 9% ③: 70% ②: 9% ①: 3%	
	PTCA活動	PTCAとの連携	18	通学マナー指導や地域の環境整備活動、学校行事などへの積極的な参加協力により、教育目標の具体化を図る。	2.9	2.9	2.8	 ④: 9% ③: 65% ②: 26% ①: 0%	B
				5月1日現在1年入部率が70.5%。全体60.8%。バドミントン部・陸上部・卓球部等が県大会出場。	B	B	B	QUアンケート、いじめアンケートを全学年で実施。アンケートを実施の結果、面談し、いじめは確認されなかった。	
					2年就業体験34名、3年企業見学23名、看護体験12名。総合学習の時間を中心に外部講師活用。オープンキャンパスへの参加を支援。進路別学習1年と2年は各2回、3年1回実施。				 ④: 0% ③: 74% ②: 26% ①: 0%
				全学年で放課後および夏季補習を実施。面接練習も小グループに分け実施。進路実現に向け社会性を培う。				 ④: 15% ③: 74% ②: 9% ①: 3%	
				防災マニュアルを作成。分教室とも連絡をとり調整。校内組織・役割分担を確認。姫路市と避難所開設について打合せの実施。				 ④: 9% ③: 68% ②: 21% ①: 3%	
				各学年家庭連絡を密にとり、全員に三者面談を実施。学年通信の発行を実施。				 ④: 9% ③: 70% ②: 9% ①: 3%	
				PTCA環境整備、別所校区ふれあい祭り、PTCAグランドゴルフ、「夢通信」の配付など地域との交流を大切に行う。				 ④: 9% ③: 65% ②: 26% ①: 0%	

平成28年度 兵庫県立姫路別所高等学校 学校評価

領域	評価の観点	評価項目	No	実践目標	前年度最終評価	中間評価	今年度最終評価	評価割合 到達度・取り組み内容 解決に向けての方策	関係者 評価
教育課程	自ら学び、自ら考える力の育成	体験的な学習の展開	19	ボランティア実践やふれあい育児体験など、地域の教育資源を生かし、本校の特色を生かした体験的な学習の充実を図る。	3.2	3.0	3.1		B
		生涯学習の視点に立った実践能力	20	漢字検定や英語検定、情報処理検定等の資格取得を目指し、生涯を通じて学び続ける意欲と態度を育成する。	3.2	2.9	2.9		
	基礎・基本の定着	わかる授業の展開	21	毎学期ごとに授業アンケートを行い、生徒にとってわかりやすい授業を行うべく授業改善について努める。生徒が主体的に学ぶ「アクティブラーニング」の手法を取り入れ、生徒個々の学力に応じた指導方法工夫する。	2.7	2.8	2.6		
		個に応じた学習指導の徹底	22	定期考査や模擬試験等の結果を分析し、生徒個々の学力を適切に把握し、習熟度別授業、週末課題、指名補習等必要な指導を行うことで学力の定着を図る。	2.8	2.8	2.6		
	総合的な学習の時間	創意工夫を生かした実践の展開	23	生徒の多様な興味・関心、能力・適性、進路希望など生徒のニーズにあった学習テーマを設定し、実践する。	2.7	2.6	2.4		
	特別活動	生徒の自主的な活動の活性化	24	学校行事やボランティア活動において、生徒会等が企画、運営にかかわり、生徒の自主・自立の意識を高める。	3.1	3.0	2.9		
課題教育	防災・安全教育	防災・安全教育の充実	25	自然災害や不審者の侵入など不測の事態に適切に対応できるように、行事や共同学習中等様々な条件下で避難訓練を行い、防災・安全教育の充実を図る。	2.9	2.8	3.1		B
	人権教育	人権教育推進体制への取組	26	学年と人権教育委員会が連携し、ホームルームや講演会などを活用して計画的な人権教育を展開し、自他の命を大切に、自他に対する肯定的な態度を育てるなど、共生社会に向けて、人権に対する理解と意識を高める。	2.7	2.6	2.5		
	情報教育	情報活用能力の育成	27	情報機器の基本的技術及び情報活用能力を育成し、情報処理検定などの資格取得を目指す。	3.2	3.0	2.9		
	学校の個性化・多様化	特色ある教育課程の編成	28	興味・関心や進路希望等に対応できる教育課程を編成し、学校設定科目や多様な選択科目の内容を検証し、特色化と内容の充実を推進する。	2.9	2.6	2.5		
			29	自己探究類型の福祉、情報・商業、保育、医療・看護の4分野についてこれまでの取組を検証し、内容の充実を図る。	3.2	2.8	2.8		
	学校の個性化・多様化	外部講師の活用	30	インスパイアハイスクール事業、特別非常勤講師等外部講師を活用した授業や部活動指導、講演会などを通して、生徒の多様な興味・関心に応える教育を展開する。薬物乱用防止、DV防止、情報モラル啓発等様々な場面で活用をすすめる。	2.9	2.9	2.9		
交流及び共同学習の推進の充実			31	交流及び共同学習や体験学習を通じて、共生の心を育み、自己有用感や自尊感情を育成する。	3.1	3.2	3.2		